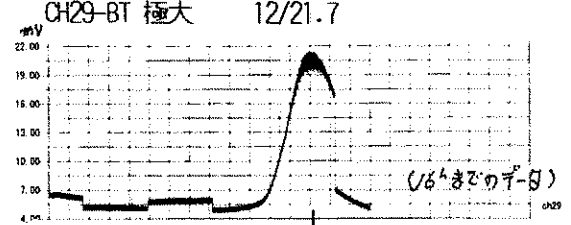
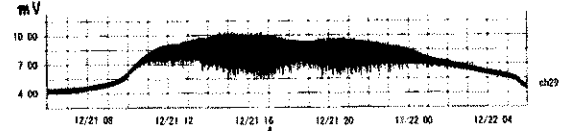
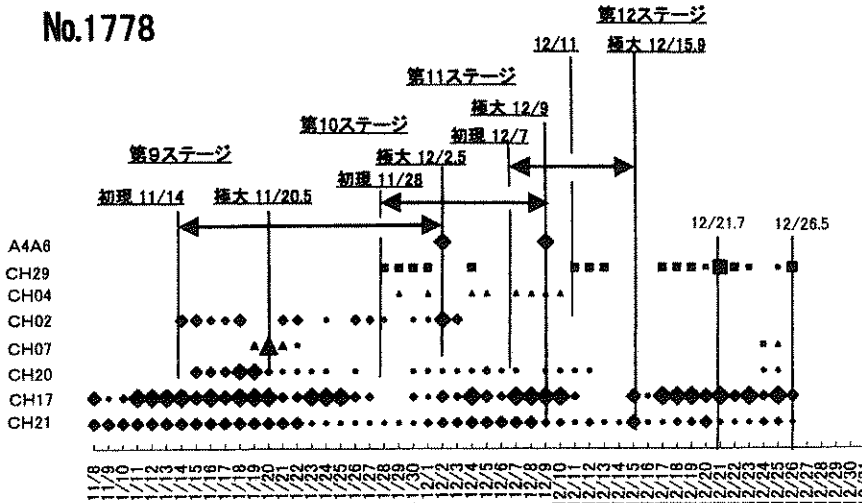


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆 続報 CH29にBT再出現<12/21(CH29-BT)の直前特異の可能性 CH17特異静穏化

No.1778



本日再出現CH29-BT 12/26.5 直前特異の可能性

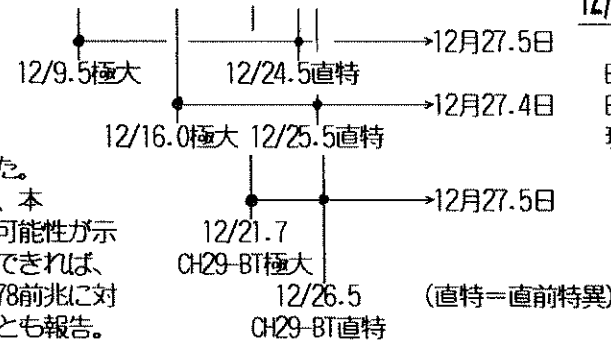
12/21 CH29-BT が極大だった可能性

12/21のCH29-BT は継続出現中BT認識であったが、21日BTは顕著BT極大だった可能性有。本日再出現の同BTは直前特異の可能性有。

極大～発生 =  $T_{map}$   
直前特異～発生 =  $T_{pa}$   
としたとき  
↓  
 $T_{map} : T_{pa} = 6 : 1$  経験則

No.1778長期継続特殊前兆の前情報では、12月24日と25日に短時間出現した前兆を、各々既に出現した極大に対する直前特異である可能性を報告致しました。

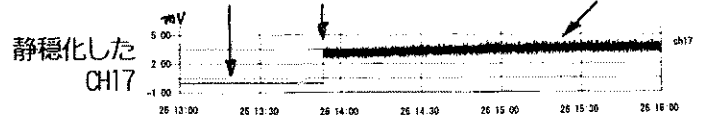
この認識が全てであり、正しい場合は、本日12月26日昼頃迄には全前兆が終息する可能性が示唆されました。本日全前兆の終息が確認できれば、現在の推定である、明日12月27日にNo.1778前兆に対する対応地震が発生する可能性となることも報告。



しかし、本日12月26日昼時点で、CH17の糸状特異が継続していた他、CH21も弱い特異状態であり、さらにCH29に基線電圧値が大きく変化するBTが出現しました。右上波形参照。

本日出現したCH29-BT は短時間であり、他の認識理解が正しいければ、直前特異である可能性があります。CH29には12/17より微弱なBTが日々継続出現しています。その中で12月21日のBTは、他の日に比べ非常に顕著でした(右上波形参照)。日々のBT継続の変化と認識していましたが、この12月21日のCH29BTを極大とし、本日再出現のCH29BTを直前特異と認識しますと、右上

継続していた糸状特異 本日26日 14h前に終息 静穏基線



枠内経験則を使用して、12月27日を示すこととなります。24日～26日までの前兆出現を全て直前特異と認識した場合は上図下記の関係となり、全てが明日の12月27日を示す結果となっています。CH29BTも短時間で終息し、継続していたCH17糸状特異も上波形の通り本日14時に終息。

まだCH21とCH20に微弱な前兆が残存しており、全前兆完全終息ではありませんが、ここまでの認識理解が正しい場合は明日27日、誤差を含めても28日迄には対応地震発生可能性があります。但し、認識理解が間違っていた場合、発生はなく再考の必要有

◆推定領域：右図 太線領域内=大枠推定領域  
斜線領域=可能性が考え易い推定領域(斜線域周辺も含まれる可能性有)  
(※影響局誤認の場合は東北領域(可能性低い見解))

◆推定規模：M7.8 ± 0.5

◆推定時期：12月27日(誤差を含めても28日)  
※現認識理解が間違っていた場合=12月28日迄に地震発生は無い。その場合は観測7-9を鑑み再考。

◇推定地震種：震源が浅い日本列島の地殻地震(陸域)  
◇推定発生時刻：午前09時±1(又は午後06時±3)

